

## 地理写真を活かした地理教育－高校での体験から－

原 眞 ー \*

### I はじめに

高校地理教育において、特に野外での見聞を通じて、地域理解や地理的見方・考え方の育成を重視してきた。そのためにも報告者自身も野外に積極的に出かけることを心がけ、野外での多様な景観・地域・風土の実態に接し、その臨場感をできるだけ授業に取り入れることを努めてきた。その一つの大きな支柱が自作の地理写真の活用である。また学習者自身も野外に出て、積極的に地域観察や地域調査を行うことを重視し力を注いできた。さらに遠足や修学旅行などの野外での教育活動を地理学習の延長・発展と位置づけ、地図とともに写真の活用など多面的に取り組んだ。

本報告では、地理教育における地理的技能や教材資料としてよく活用される地理写真を取りあげる。とくに自作の地理写真の意義や地理教育の効果など、「地理写真を活かした地理教育」について、高校での体験を踏まえつつ再考し、写真地理への手がかりとしたい。

### II 地理写真とその活用を考える

#### (1) 地理写真を求めて

様々な地理巡検に向くとカメラを持たない参加者はほとんどいない。報告者自身も含めて参加者の多くは、現地で実にたくさんの写真を撮っている。どのような目的と視点から何を対象に撮っているのだろうか。またその後、どのように保存し活用しているのだろうか。つまり、写真撮影の

視点とその活用法に興味・関心が高まる。

地域教材の収集や教材開発などの目的で、地理写真を求めて、個人的また巡検などを通じて各地を訪ね、地理写真のストックを重ねることに努めてきた。そして多様な地域に接することを念頭におき、地域や景観などを見る目（観察眼）を養うことを大切にしてきた。野外に出かければ地理写真のチャンスが広がるのである。巡検は時間的、場所的、撮影条件などの制約は多いが、巡検テーマから地域に接するので、地域の断面を撮る地理写真のトレーニングができるよい機会であると考えている。

今日、デジタルカメラでの写真が急速に主流となり、便利さが優先され、とにかく多く撮影すればよいとの安易な気持ちになりがちである。しかし瞬間的であってもよく観察して魂を入れて撮る精神（一写入魂）を大切にしたいものである。また地理写真を通じて地理の目を養うことは、同時に地理写真の深みにもつながっていくのである。

#### (2) 地理写真を考える

地理写真とは、簡潔に言えば「地理の目」と「写真の眼」で撮った写真である。

「地理の目」とは景観・場所・地域・地理的事象などを見る・捉える地理的視点である。「写真の眼」とは景観・場所・地域・地理的事象などの実態を「地理の目」を通して、視覚的表現の媒介であるカメラで意図的に捉える視点である。

言うまでもなく地理写真は写真の一つの分野である。したがって地理写真を考える場合、まず写

\*愛知教育大学・三重大学・中京大学ほか非常勤講師・前愛知県立高校教諭

真の基本的な性格を認識し、写真の撮り方を深めることが大切である。

カメラ、写真、地理写真について多様な側面があり相互に関連している。それらの観点を具体的に次に掲げてみる。

- ① カメラはハードウェアで写真はソフトウェアである。カメラの眼を磨き、写真について理解を深めたい。
- ② 観察眼とカメラアイ。日頃から多様な事象について観察力を培うことが大切であり、カメラのファインダーからいかに景観を切り取るかが重要である。
- ③ シャッターチャンスをつかえる。
- ④ 写真に語りしめる。
- ⑤ 写真の表現力と写真からの感受性は重要である。
- ⑥ 写真の背後を読む・想像する。
- ⑦ 写真は主観的で誇張されやすいことに配慮する。
- ⑧ 撮影者が意図せぬ内容（情報）を読む。
- ⑨ 地理写真は視覚的教材である。
- ⑩ 地理写真は撮影者の地理観が反映する。
- ⑪ 地理写真は景観写真から。
- ⑫ すべての風景写真は地理写真（読み手次第）である。
- ⑬ 絵はがきも地理写真になる。
- ⑭ 地理写真の撮り方・読み方・活用の仕方 of 3つの観点を考慮したい。
- ⑮ 地理的技能としての地理写真の役割を認識したい。
- ⑯ 地理写真は地域理解の糸口でもある。
- ⑰ 地域変化を撮る（定点撮影）。
- ⑱ 地理写真（写真）の有効性と限界性を常に配慮したい。
- ⑲ 自作の地理写真は強い説得力がある。
- ⑳ 地理巡検は地理写真のスキル習得とストック

の場でもある。

⑨から⑳は地理写真に係わる観点である。

地理的現象は多岐に及ぶので、一見、平凡な光景であっても地理的な視点で捉え解釈し、地理的に判読できることも数多くある。したがって地理写真を判読する力量が求められる。地理写真の表現や活用の向上には、その撮影の意図と方法、利用法において、経験と研鑽を重ねることは大切である。地理写真は景観写真で代表されるので、日常的によく景観についての理解を深め、その地理的な意味や特色を把握できるように心がけたい。

### （3）地理写真の撮り方・提示の仕方

地理写真の撮影では、よく撮影の目的などおさえ撮影地点を考慮することは撮影の基本である。しかし野外で瞬時にとらえる観察力が求められることもまた多い。

1) 地理写真の撮り方として次の3つの視点がある。

- ① 一部を強調するか全体からとらえるか。
- ② 読み取ることが容易であるかどうか。
- ③ 具体的か抽象的かである。

2) 撮影内容について次の4つの視点がある。

- ① 事実（現象）を撮る。
- ② ねらいを撮る。
- ③ 偶然を撮る。
- ④ 発見を撮る。

3) 写真の提示の仕方について次の4つの視点がある。

- ① 写真の提示→自由に読みとる・考えさせる→内容の認識・理解。
- ② 写真の提示→考えさせる→ヒントを与える→認識・発展。
- ③ 写真の提示→意図と解説を加える→考えさせる→認識・発展。
- ④ 事前に内容などを説明→写真の提示→内容の確認→発展。

### （4）地理写真と地理教育の関係

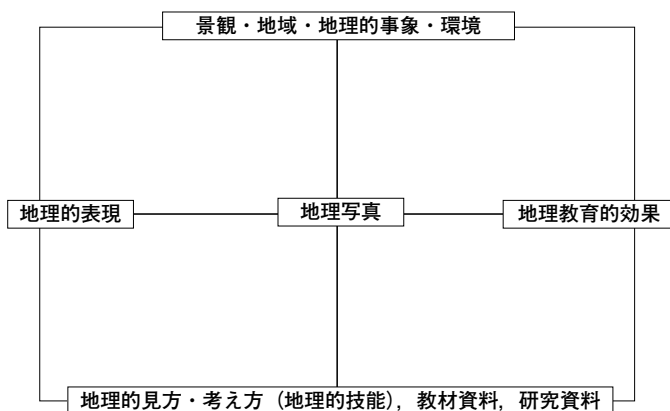


図1 地理写真と地理教育の構図

図1に掲げたように、地理写真と地理教育との関係について、①景観・風土・環境・地理的事象、②地理的表現(視覚情報)、③地理的見方考え方(地理的技能)、教材資料、研究資料、④地理教育の効果の4つの観点から捉えられる。

地理写真と景観・風土などとの関係では、撮る視点と読む視点の両面からみる必要がある。撮る側の意図・視点などによって多様なメッセージを地理写真に取り込むことができる。一方、読む側において、自由に判読できるが、判読する側の関心、問題意識、知識、経験、感受性、想像力などの差異で、様々な受けとめ方をされることが多い。

多くの地理的表現と資料の中の一つである地理写真の大きな特色は言うまでもなく視覚的情報である。視覚的情報の資料として、地理教育的側面での影響(効果)を推測すると、臨場感がもたらす基本的な意義を有している。それ故、学習者の興味・関心、学習意欲、具体性、理解と納得、学習内容の定着など、広範囲に及ぶ。

地理写真の使用目的や方法との関係では、地理的技能の育成の側面、教材資料の側面、研究資料の側面の3点がある。教材資料としては、景観・風土的内容、地誌的内容、系統地理的内容、テーマ的内容に大きく分けることができる。

#### (5) 地理写真の活用

現行の中学校「社会科地理的分野」と高校「地理歴史科、地理A・地理B」の学習指導要領の「内容の取扱い」として、ともに「景観写真の読み取り」が明記され、地理的技能を身に付けることが重視されている。地理的技能との関わりにおいて、「景観写真の読み取り」が学習指導要領の取扱いではじめて登場したことは注目される。今回改訂の学習指導要領でも継

続され、同じ内容が掲げられている。

近年ますます地理教科書や資料集において、カラー写真の掲載が多く、よりビジュアルになる傾向にある。しかし写真をはじめ視聴覚的な内容は、学習効果を高めるための補助的手段として考えられがちになりやすく、つい容易に活用されることが少なくないように思われる。教科書の内容と掲載写真との関連を十分に把握し、適切な活用により、学習活動をより深めていきたいものである。

地理写真の活用においては、活用する側の地理教育観(地理観)などが意識せずともよく反映されるのでは、と思われる。上手く写真を活用する(活用術)には、ねらいやタイミングが必要である。いつでも活用できるように、整理と保存の仕方が大切である。

### Ⅲ 地理写真の活用事例

#### (1) 写真を読む

地理写真の活用は、地理・地域の理解や興味・関心などにおいて、地理教育の効果は大きいと体験から思われる。とくに世界地誌の学習に写真を活用すれば、イメージも捉えやすく理解はより深まり大変意義がある、と考えている。やはり地域認識などに対する視覚的情報のもつ意義は大きい。その場合、写真活用の意図、提示法が重要なポイントとなる。

この活用事例は、「写真の地理的見方・考え方」の観点で、事前に場所や内容の説明を行わず、写真を提示し、自由に読み取りながら、写真の主題設定、キーワード、まとめについて問いかけてみた。その1)、その2)、その3)の4枚の写真は、「ミャンマーの生活環境と景観」を撮ったものである(1998年8月撮影)。

#### その1) 暮らしをみつめる

写真1・写真2は、ミャンマーの古都バガンの街とシャン高原インレー湖畔近くの光景である。学習者の反応を少し取り上げてみる。

=学習者の反応=

<主題> ・ある国の庶民の暮らし方・発展途上国の日常風景・洗濯と頭の上の荷物・人びとの私生活(女)・家事労働する人たち・忙しい仕事・生活水準が上がるばかりがよいのか・女性の仕事・貧しさ・暮らしの知恵など。

<キーワード> ・生活様式・町並みと洗濯・女



写真1



写真2

性の仕事・服装・洗濯・女性・貧しさ・工夫・協力・人間関係・交流・生活風景・発展途上国・都市部と農村・日々の暮らしなど。

<比較のまとめ> 「日本と比べてとても貧しい国だろう」「どちらも女性が働いている」「家のことはすべて女の人がやる雰囲気がただよっている。でも2つとも女のひとがいきいきとしていた」「機械まかせな生活ではなく、人との触れ合い、家事の苦を少なくして生活する人々」「2つの写真の様子は両方とも日本では見られない姿だった」「二つとも何か楽になるようにと生活の工夫がなされている」「2枚とも日常生活の一部なのでどういう暮らしむきなのか少しわかった。2枚とも女の人何かしているの、男の人がしていることが少し気になった」。

#### その2) 景観を読む(1)

写真3は、「シャン高原のインレー湖上の浮き畑と作業小屋」である。トマトを中心として、唐辛子、ナス、きゅうりなどを水耕栽培し、市場に出荷している。

=学習者の反応=

<主題> ・浮稲・稲作・水に浮く家・水上の村・水上に暮らす知恵・水上の畑・水上作物など。

<キーワード> ・水位・水田・観測地点・浮き稲・湖・雨季・小屋・自然・家・草・米・湿地・多雨・農業・豊かな土地など。

#### <主題と読み取りの事例>



写真3

①浮き稲? - 「曇っている。見た感じ春だろう。

所々に木の棒が高く突き出ている。左奥に小屋が見える。休憩場のようなためにあるのだろうか」。

②稲作 - 「非常に水位が高い。小屋が高床式にしてあることから、高温多湿で多雨な地域なのだろうか。また、ところどころにある長い棒は何なのか。田んぼごとのしきりなのか」。

③浮き稲なのか - 「ふつうの稲作に比べて水の量が多く、稲の高さも高いので浮き稲じゃないかと思われる。浮き稲は洪水の水をそのまま使うので、夏に雨が多くある地域と考えられる。チャオブラヤ川付近か中国の南部じゃないかと推測してみた。小屋のある場所は、周りより高い位置にあるので、浮き稲に違いない」。

④水上の村 - 「これは、池、湖、沼の上で野菜を栽培しているのか。中国の奥地では水草など積み上げて、同じような野菜の栽培を行ったり、その上で生活しているらしい。多くの細長いくいのようなものが見えるが、野菜が流されないようにしているのか。それともつる性の植物がからまったりする支柱であろうか」。

### その3) 景観を読む(2)

写真4はミャンマーのパカンからシャン高原に



写真4

向かう途中の車窓から撮ったものである。森林伐採地域の景観と推測した。

=学習者の反応=

<主題>・川のような道のような・乾いた道・森林地帯?・緑と砂・乾いた土壌・平らな道路と森林・大河の跡・荒れた土地など・乾いてしまった川・堤防がない・川の様子・氾濫後・水のない川・川の氾濫など。

<キーワード>・氾濫後・乾季・荒れた道・森林・洪水・干ばつ・破壊・自然・土の色・環境・奥地・砂・見たことがない・左右の・大河・何のための土地か・自然を見る目など。

<主題と読み取りの事例>

①乾いた土壌 - 「ずっと遠くまで兩岸を森に挟まれた乾いた土がつづき、ところどころ雑草がはえてきていることから、長いこと雨が降っていない川(ワジ)なのだろうかと思った。そして季節は乾季だろうかと思った」。

②川 - 「水が濁っている。数日前か前日大雨が降ったのだろうか。川は幅がゆるやかだ。根に水がつかっているのかな。あれはマングローブというのだろうか。日本ではあまり見られない」。

③川の様子 - 「この写真は川があったのだろうか。水は見えないが、土がさらさらである。また、土砂くずれか何かあったのだろうか。この川の兩岸には山と森がある。この森はとても深いと思う。どこまでも続いているのだろうか。この写真はバスからとったそうだが、橋の上を渡っているときだろう。(略)」。

④川の氾濫 - 「雨が多く川が氾濫している。堤防がない。木々が守っている。ただ木や草も流され、上流の方は様々な侵食が進み、地形が変化しているように思える。土砂は流され、水の色は茶色」。

⑤水のない川 - 「道?干上がった川? 天気が続

いて、水がなくなった川みたい。水はない。  
両側の木はしっかりしげっている。この地域  
に何がおこったのだから。

その4) 2つの海岸地形から－主題と内容を考える  
写真5は南大東島(沖縄県), 写真6は青ヶ島(東  
京都)の海岸地形である(それぞれ2000年6月,  
2001年8月撮影)。共通の主題は「離島苦」を設定  
している。内容は前者は隆起珊瑚地形で後者はカ  
ルデラの外輪山の地形の急斜面で両者とも港湾の  
地形条件はよくない。



写真5



写真6

## (2) 地誌教材としての主な取り組み

(事例1) <タイランド学習> (『地理A』) 1997  
年度3年

その1) <タイランド地理学習のまとめ>－プリ  
ントの項目(別紙参照)

①タイランド学習を始めるにあたって(問題意識,  
興味・関心, 視点など)

②タイランドの概況－変貌する産業・経済・貿易

③日・タイ関係

④社会と文化(生活)

⑤タイランドの特色と課題

⑥タイランドの2つの地域的側面－2つを比較し  
て

1) 首都・バンコク 2) 北部山岳国境地帯

⑦タイランド理解・認識のキーワード2つとその  
ミニ解説

⑧タイランド学習のイメージ－学習前と学習後

⑨タイランドで最も興味・関心がもてたこととそ  
の感想(背景)などについて

⑩タイランドを語る

⑪タイランド学習の感想

その2) <タイランド・スライド整理学習ノート>  
プリントの項目(別紙参照)。

《首都・バンコク》《北部山岳地帯と少数民族》  
《北の都・チェンマイ》《アユタヤ王朝遺跡》《ス  
コタイ王朝遺跡》《農業農村・山村の景観》《自然  
景観》《その他》《スライドに出てきた地名》《興  
味・関心のあった(印象に残った)内容とその感想  
その1, その2, その3》《スライドで見たタイ  
ランドの印象・感想》《スライド学習の意義(地理  
学習とスライド)》(写真省略)

感想①－「プリントやスライドを見たりして平行  
的に学習できたので, プリントの内容にとど  
まらず, 実際スライドを見ることでより詳し  
いタイの状況を理解することができたと思っ  
ています。学習後, 自分の考えや, 多くのタ  
イの知識が得られたと思いました」。

感想②－「教科書や資料集などにらめっこして,  
先生の話だけをきくような授業とは違って,  
実際にたくさんのスライドを見ながら先生の  
体験した話をきくので, とても現実的で, 授  
業が終わると, 実際に行ってきたみたいにな  
タイのことがよくわかります。教科書だけだと,  
「本当?」と思うようなことも, 実際スライ

ドを見せられると、びっくりするけれどよく納得できます」。

感想③－「実際に写真を見て学習するので、私にとってとてもわかりやすい。百聞は一見にしかずは、この言葉どおりだと思う。しかしかつてに自分で考え思い違いをすることもあるので、注意しなければいけない。スライドを見ているとその場所に行ってみたくてよく思う。見た場所には一度は行ってみたくて」。

(事例2)－その1)＜イギリスのスライド学習－地理的・歴史的視点＞ プリント項目(別紙参照)『地理B』2002年度3年。(写真省略)

- ① イギリスってどんな国－イギリスの見方
- ② イングランドとスコットランド
- ③ スコットランド・湖水地方の氷河地形
- ④ スコットランド－スコットランドの風土産業
- ⑤ エジンバラ－スコットランドの古都
- ⑥ アバジーン－北海漁業と北海油田の基地
- ⑦ 湖水地域－ナショナルトラストの発祥地
- ⑧ マンチェスター、リバープール、グラスゴー産業革命都市の再生
- ⑨ 大学都市・ケンブリッジ
- ⑩ チェスター、シュルーベリー、ストラフォード・アボン・エイボン－歴史都市の再生
- ⑪ 内陸水路の変遷
- ⑫ ローマ遺跡－アントニアンウォール、ハドリアンウォール、ロンドンの市壁
- ⑬ 世界都市・多民族都市ロンドンの景観
- ⑭ ドックランズの再開発－テムズ川の河港・旧ロンドン港の大規模開発
- ⑮ ロンドンのニュータウン・スティーブニジ
- ⑯ イングランドの農業・農村景観

その2)＜イギリス(付アイルランド)の地理－スライド中心として＞ プリント項目(別紙参照) 2002年度『地理B』3年

1. イギリスのイメージ 2. アイルランドのイ

メージ 3. ヨーロッパのイメージ 4. フランスのイメージ 5. イギリスの首都 6. アイルランドの首都 7. イギリスの紹介 8. イギリスの自然・経済・社会の概況(プリント参照) 9. イギリスの白地図作業 10. イングランドとスコットランドのまとめ(プリントの要点) 11. スライド(イングランドとスコットランド)の要点 12. アイルランドのスライドの要点 13. スライド学習の感想

感想①－「スライドの時、先生の話をしてできるだけ細かくメモをとっておいたのですが、それをまとめてみたら、授業で配られたプリントの要点が網羅されていて、あのスライド学習でイギリスとアイルランドの重要な部分のほとんどを学ぶことができたと思い、すごいと思いました。しかもスライドで実際に写真を見ることが、その土地の姿を知ることができるのはとてもよいことだと思います。今回はイギリスの城や湖水地方の自然、イングランドとスコットランドのボーダー地域の花畑などイギリス独特の風景が心に残っています。今回のスライドの授業はとても勉強になったし、楽しかったです。いつか私もイギリス・アイルランドへ行きたいです」。

感想②－「プリントとスライドを平行して使っていくとわかりやすかった。写真もいいけれど、今度は自分の目で見に行きたいと思った。昔のイングランドとスコットランドの国境であったボーダー地域はとても歴史を感じたし、U字谷のスライドでは自然の力強さを感じとれた。やはり言葉だけではスケールをなかなか感じとれない」。

感想③－「スライドの写真を見ると、風土や人、すべてにおいてゆっくりと時が流れているように感じる面があった。民族的にそういったきちんと時間通りにつまんだ人生を送ること

がどうしてもできないのだろうか。そこは日本人の性格とあきらかにちがうところであろう。おたがい異文化を認めあい、自分の文化を守っていけるようになれば、本望である」。

その他、韓国、オーストラリア、中国雲南、ドイツ・オーストリア、カナダ、ミャンマー、ベトナム・カンボジア、北欧、ニュージーランド、ハワイ島一周、台湾一周、南北大東島（沖縄県）などを取り入れた。

### （３）テーマ・地理的事象の事例

教科書の内容や項目に関連づけながら多面的に地理写真を取り入れ活用してきた。一項目は主に２～４枚程度を基本にして組み写真的に構成している。代表的な項目を掲げておく（写真省略）。

- １）気候景観－長崎県対馬の石屋根と沖縄県波照間島の福木と石垣に囲まれた集落
- ２）氷河地形－カナダのロッキー山脈のバンフ国立公園
- ３）ワジと塩湖（乾燥地形）－オーストラリア内陸部とモンゴルのゴビ砂漠
- ４）ハワイ島の火山地形
- ５）自然環境と生活－ハワイ島の東海岸と西海岸
- ６）岐阜県養老山系の砂防
- ７）輪中地帯－木曽三川下流地域
- ８）輪中地域の伝統的家屋－岐阜県大垣市
- ９）山梨県甲府盆地の勝沼扇状地のブドウ栽培とワインづくり
- 10) 高緯度地域の生活環境－北欧の日光浴(ノルウェー・オスロー)とカナダ・カルガリーのスカイウェー
- 11) 遊牧民の生活環境（モンゴル）
- 12) 環濠集落－奈良県大和郡山市稗田
- 13) 寺内町－一身田（三重県津市）と今井（奈良県橿原市）
- 14) 囲郭都市－ドイツのローテンブルク、中国雲南省の大理古城

- 15) 散村の景観－砺波平野（富山県）
- 16) コリアタウン－大阪市生野区の御幸商店街
- 17) トンレサップ湖畔の漁業集落
- 18) 計画都市－キャンベラ（オーストラリアの首都）
- 19) 地場産業の町－愛知県常滑市
- 20) 旧産炭地の街－長崎県高島町
- 21) 移民の集落－送り出す集落＜和歌山県日の岬・通称アメリカ村＞と移民先＜カナダのバンクーバー郊外のスティーブソン＞
- 22) さいたま新都心
- 23) 大都市の再開発－東京の汐留と大阪のビジネスパーク
- 24) 離島振興－愛知県佐久島
- 25) 新交通システム－沖縄都市モノレールと名古屋のガイドウェイバス
- 26) 水上バス－東京の隅田川
- 27) 名古屋の運河－堀川と中川運河
- 28) 阿里山森林鉄道（台湾）
- 29) 名古屋港のウォーターフロント
- 30) まちづくり－愛知県足助町（現豊田市）
- 31) 漁業の出稼ぎの島－ノルウェーのロフォーテン諸島と石川県輪島市の舳倉島
- 32) 高冷地農業－岐阜県ひるがの高原
- 33) 京都の伝統野菜栽培地域－加茂茄子
- 34) 大都市近郊の林業－京都の北山杉
- 35) 過疎地帯を行く－奈良県十津川村の山村
- 36) 環境保全①－ナショナルトラスト発祥の地イギリス湖水地方と和歌山県田辺市の天神崎
- 37) 環境保全②－里山・干潟（愛知県瀬戸市の海上の森と名古屋港藤前干潟）
- 38) 環境問題－産業廃棄物の不法投棄＜香川県豊島＞とエコタウン＜香川県直島＞
- 39) 災害と復興－阪神淡路大震災とその後（神戸市新長田地区）
- 40) 世界遺産－岐阜県の白川郷、中国雲南省麗江



旧市街 カンボジアのアンコールワット、ベトナムのハロン湾、カナダケベック歴史地区、オーストラリアのウルル-カタ・ジュタ国立公園

(4) 地形図・市街図・案内板などと併用

地理写真を読む技能は、地形図の読図と併用すれば理解が深まる。また案内の説明板などを活用すると参考になることが多いので、時折併用している(地形図・地図など省略)。

立山(富山県)のカル(氷河地形)(写真7)

2003年10月撮影

南大東島(沖縄県)のサンゴ地形(写真8)

2000年6月撮影

上甕島(鹿児島県)の海岸地形(写真9・写真10)

2000年10月撮影

養老東山麓(岐阜県)の天井川(写真11)

2001年4月撮影

武蔵野台地の新田集落(東京都小平市小川新田)

(写真12) 1983年7月撮影

カナダ・カルガリーのスカイウエー(写真13)



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12



写真 13

1995年 8 月撮影

#### (5) 文学作品による景観描写を活用

＜チャオプラヤデルタのバンコクの景観（環境）と暮らし＞

次に掲げる文は、三島由紀夫の名作『暁の寺』（豊饒の海 3, 新潮社 1970 年）の書き出し部分である。

バンコックは雨期だった。空気はいつも軽い雨滴を含んでいた。強い日ざしの中にも、しばしば、雨滴が舞っていた。しかし空のどこかには必ず青空が覗かれ、雲はともすると日のまわりにあつく、雲の外周の空は燦爛とかがやいていた。驟雨の来る前の深い豫兆に みちた灰黒色は凄かった。その暗示を孕んだ黒は、いちめんの緑のところどころに椰子の木をてん綴した低い町並を覆うた。

そもそもバンコックの名は、アユタヤ王朝時代ここに橄欖樹が多かったところからバーン（町）コーク（橄欖）と名付けられたのにはじまるが、古名は叉、天使都（クルン・テープ）と謂った。海拔 2 米に満たない町の交通は、すべて運河にたよっている。運河と云っても、道を築くために土盛りをすれば、掘ったところがすなわち川になる。家を建てるために土盛りをすれば池ができる。そうしてできた池はおのずから川に通じ、かくていはゆる運河は四通八達して、すべてがあの水の母、ここの人たちの肌の色と等しく茶褐色の日に照り映えるメナム河に通じていた。

市の中心部には、露台のついた三階建ての歐洲風の建築があり、外人居留地には 2, 3 階の煉瓦造りも多かったが、この町のもっとも美しい特色をなす街路樹は、道路改正のためにそこかしこで伐り倒され、舗装道路が一部に出来かけていた。のこる合歓の並木は、烈日をさへぎって深々と道の上におほひかぶさり、黒い紗のような木蔭の裏を布いていたが、暑さにしなだれた葉は雷鳴を伴った驟雨のあとでは、俄に蘇って凛々しく葉末を反らしていた。（略）

バンコックが東洋ウェニスと呼ばれるのは、規模も比較にならぬこの二つの都市の外見上の對比に據つたものではない。それは一つには無数の運河による水上交通と、二つにはいずれも寺院の数が多いからである。バンコックの寺の数は七百あった。

この文章は、1931 年当時のタイの首都バンコクの気候・土地・都市の姿を精緻に描写している。激しく変容する現在と比較するには、格好の教材にもなろう。景観描写の語句を取り出してみる。雨期・強い日ざし・驟雨・椰子・橄欖樹・バンコクの地名の由来・古名の天使の都（クルン・テープ）・海拔 2 米・運河・土盛り・メナム河・外人居留地・街路樹の切り倒し・東洋のウェニス・水上交通・寺の数は七百など。文学作品の描写から多くを読みとり、バンコクの都市景観（環境）に迫ってみた。このような優れた景観描写を読み取り、土地のイメージを連想することは地域理解を深めることにつながる。文学作品を地誌学習の導入に活用することも意義があるので、タイランド学習に取り上げ活用した（写真省略）。

#### (6) 写真を重視した地域学習(名古屋の都市学習)

名古屋地区は身近な地域であり、よく出かけ撮影歩き、また学会、研究会、他地域からの地理巡検案内の機会もあり、地理写真のストックも多い。名古屋の都市学習の事例などで活用している（写

真省略)。

清須越－清須から名古屋へ（慶長のニュータウン）、名古屋の南北軸（本町通り）－名古屋城から熱田神宮・宮の渡し、メインストリート広小路通、久屋大通と若宮大通（100m道路）、名古屋港、堀川と中川運河と松重閘門、大須の商業地区、名古屋の地下街、同業者街（長者街・織維間屋街、大須の家具街など）、旧東海道有松宿の町並みと地場産業、平和公園ほか

#### （7）野外活動における写真・地図による事前・事後学習の主な事例

野外活動においても多くの地域を訪ねてきた。地理教育の野外編としての観点で取り組み、地図とともに地理写真を活用してきた。また地理の授業にもトピックとして関連付けたりしてきた。個人的にまた下見の折に撮った写真など多くを葉の中に取り入れてきた。とくに修学旅行は地域に学ぶ視点を重視した。

- 1) 遠足を活かした地形学習－岐阜県養老山系養老の滝ハイキング（扇状地と天井川）ほか。
- 2) 修学旅行を活かした地域学習－金沢と能登半島・輪島（石川県）、広島・倉敷・神戸ほか。
- 3) 野外活動を活かした地域学習－ひるがの高原と白川郷（岐阜県）ほか。

#### Ⅳ 地理写真再考－学習者の反応を踏まえて

毎年、工夫しつつ地理写真を多様な視点から授業に取り入れ、多くの参考また貴重な学習者の反応を得てきた。とくに地理写真の感想を紹介しつつ、その学習者の反応を見つめてみたい。

その1)『地理B』でプリントとともにスライドを多用したカナダの地誌学習の実施後（2003年6月）、「地理と写真（スライド）」について  
(1)写真の意義、(2)写真の有効性、(3)写真の限界性、(4)地理写真の4つの観点から、それぞれ学習者（3年生）に綴ってもらった。

＜意義と有効性＞ ①「地域についての深い知識を得ることができ、暗記でないいつまでも残るような知識ができる」、②「その土地の感じや視覚的情報を得ることができる。地理のおもしろさや興味・関心が生じてくる」、③「その国の特色を写真によって確認でき、学習後印象に残る」、④「地理の知識をイメージとともに根付けられる」、⑤「百聞は一見にしかずである」、⑥「言葉だけでは分からないものが写真を見ることによって分かる」、⑦「学習内容が整理できる」、⑧「その場所でしか見ることができない瞬間をとらえ、保存できる」、⑨「地理というのは自分で見て体験して知るのが一番いいと思う。しかし、それには限界があるから、写真と先生の説明によってその国に少しでも近づこうとすることだと思う」、⑩「実際のものをそのまま目を通して見ることによって、より理解が深まる」、⑪「写真を使用することにより、一度に多くの視点をもつことができる」、⑫「文で読んでも分かりづらい表現が地理には沢山ある。しかし、写真と照らし合わせて見ることにより、大変分かりやすくなる。写真である程度の所までは理解可能」、⑬「写真はその一瞬を切りとることができる。また後日にもう一度見ることができ、そこからまた別の発見をすることもできる」、⑭「現地の様子を見ながら学習できるので、理解の幅が広がる」など。

要点をまとめると、＜地域の深い知識を得る＞、＜地理のおもしろさと興味関心＞、＜確認と印象＞、＜百聞は一見にしかず＞、＜学習内容の整理＞、＜言葉を補足できる＞、＜多くの視点＞、＜別の発見＞、＜理解の幅が広がる＞など、意義や有効性が確認できたのではないと思われる。

＜写真の限界性＞ ①「写真はレンズ以外の外側の様子を知ることができない」、②「誇張されがちである」、③「間違った先入観を与えるおそれがある」、④「撮影者と視聴者にずれが生じるお

それがある」, ⑤「撮影範囲がきまっているので視野が狭くなる」, ⑥「写真は地域の一部である」, ⑦「写真は視覚情報しか得ることができないので、写真に表せない部分もある」, ⑧「一つの場所であっても、いろんな地理の写真がある。角度によって印象も違う」, ⑨「写真で撮っていないところは見えないので、誤った認識をしてしまうこともある」など。

要点をまとめると、＜レンズの外側の様子はない＞、＜誇張されがち＞、＜間違っただ先入観のおそれ＞、＜撮影者と視聴者とのズレのおそれ＞、＜撮影範囲の制約＞、＜写真は地域の一部＞など、写真の限界性をみごとに指摘している。

＜地理写真＞ ①「場所の風景」, ②「地理の写真での見るべき所、注目すべき所は写っている所すべてである。写真を撮る人が何をみせたかったのかを考えることも大切である」, ③「写真一枚一枚はとても大切だと思う。地理の写真はただ風景を表してと思う人もいるかもしれないが、その風景に意味がある」, ④「ただ風景をとることだと思う人がいるかもしれない。その風景に意味があるのだ」, ⑤「地理と写真は切っても切り離せない関係にある。もし写真がなければ、私たちは言葉による知識の頭でっかちになってしまう。地理において写真はとても重要である」, ⑥「地理の写真はふつうの写真と違い、撮るときは、何を撮るのかをちゃんと目的をもって撮ることが大切である」, ⑦「地理写真は記念写真ではない。そのため、その土地の特性や文化の特徴などを芸術ではないので、誇張せず正しく撮ることが必要」, ⑧「あの時撮った写真と今撮った写真は必ず同じではなく、昔と現在の相違を見比べることができる」, ⑨「地理を深く知るためにはもっともかかせないのが写真撮影である」, ⑩「地理写真によってさらに深く地理の奥深さを知ることができ、興味の幅が広がる」, ⑪「一つの場所であってもい

ろんな地理の写真がある」など。

要点をまとめると、＜場所の風景＞、＜風景には意味がある＞、＜地理写真は写っているすべてである＞、＜地域の変化を捉える＞、＜記念写真ではなく土地の特性などを正確に写す＞、＜同じ場所でも多様な地理写真がある＞などが指摘されている。

その2) 地理と写真について 2004年7月

①『地理を勉強するにあたって文のみで理解しようとするのは難しいけれど、そこに写真が入ることによって視覚分野が広がり、理解するのが容易になる。データだけを見ていてもなかなか実際のイメージをつかむことは難しい。かといって「実際に現地に行けばよい」というのには、いろいろな面で無理がある。そこで、それを手助けするのが写真である。そのデータに準じる写真を見れば、見ないであやふやになっているデータを確信に変えることができる』。

②「地理と写真を一言で述べよと言うならば、それはまさに原先生でないですか？。地理的特徴つまり気候、住居、交通、民族、風土などは、一瞬の描写として残せる手段が写真であると思う。また、地理的特徴をとらえるうえで写真を見ることは大いに手助けとなるだろう」。

③「写真に写された風景や人々からは、その一枚の写真だけでもさまざまなものをとらえることができる」。

④『写真を撮ることよりもまず写真を撮りに現場に行くという行為が大切であると思う。写真とは現場で見た空気を思い出す媒介となるものだと思う。また写真はメモにもなる。見る、感じる、歩くことが大切な「地理」という科目において、写真は重要なものであることを再認識した』。

④「地理と写真との関係はとても深いと思う。授業でスライド写真を見たとき、やっぱり普通の

授業の勉強とはまたちがったことを学べる気がしたし、頭の中にその印象がより大きく残っている。写真は地理を学習するうえでなくてはならない情報伝達の役割をはたしていると思う」。

⑥「写真は1枚の中からたくさんのことを学べる。写真から得る力は人それぞれ違うが、この力が本当の地理に対する力だと思う」

⑦「ある土地の風土、人、文化などを調べる場合、もっと力を発揮するのは、現地へ赴き、自分で五感を駆使して調査する方法だと言える。だが決して写真は万能の道具・手段というわけではない。なぜなら視野が限られるからである。またときとして誤った解釈が生じるかもしれない」。

⑧「地理というものは、机上だけでやっても仕方がない、というか限界があると思う。本物に触れて、それを机上に生かさなければならぬと思う。そこで役に立つのが写真である。写真は細部にわたって、リアルに表現してくれる。これで最初には気づかなかったことも分らせてくれる。また先日の授業のようにカナダに全く行ったことのない僕たちが、カナダを疑似体験できたのも写真のおかげだ」。

⑨「自分で調べ学習をする際には記録していけるのでとても便利である。写真は地理のおもしろさを引き出してくれるので、地理には欠かせない」。

⑩「高校に入ってからのはじめて、地理を勉強する時には、写真が重要だということがわかった。それまでは実際にその土地の写真があまりなかったので想像で考えていただけだったので、授業が楽しくなかった。とくに楽しかったのはカナダの写真で、カナダはあまり資料集にもなっていないので新鮮だった。やはり写真があるとその地方のこともわかるし、かなりやる気もでてくるので、地理には写真が絶対に必要だ

と思った」。

⑪「たとえば扇状地がどのようなものであるのか、写真を見れば形やまわりの様子までもいろいろなことも知ることができる。また野外調査をするなら、その時には気付かなかったことが、写真に写されており新しい発見ができるかもしれない。写真という媒体によって地理はより深まると思う」。

自作の地理写真に対するこれらの多くの感想は、いずれもよくその特性について率直にまた鋭くよく表現されている。どれも手応えがあり勇気づけられる内容である。その都度、改めて地理写真の役割について再考させられてきた。

高校社会科地理から地理歴史科「地理」へと大きく変遷するなか、地理写真の活用は「地理B」が中心で地理Aでも活用してきた。「地理A」では生活文化やテーマ学習が中心的である。地理Aを担当した場合は、異文化理解や環境教育において地理写真を活かすことに工夫してきた。遊牧の生活（モンゴル）、タイランド北部、ミャンマー・シャン高原、中国雲南省などの少数民族の集落、ハワイなどを取り上げた。配慮したいことは、写真はステレオタイプ（固定観念）の再生産や偏見の助長のおそれもあるということである。地理写真を多様な視点から捉えそのテーマ性や特色を把握し、さらに分析し総合することが大切である。地理写真の判読力は一つの大きな地理的技能である。

## V おわりに—地理写真から写真地理への模索を求めて

地理教育において豊かな地域像や地理観の育成に重点を置き、その一環として地理写真に関心を抱いてきた。そのため地理写真を求めて多くの地域に訪ね、撮り歩くことを心がけた。しかし自作の地理写真を必ずしも十分に検討し計画的に活用

を試みたというより、むしろ模索しながらの実施であった。

授業の反応や学習者の感想などを加味して、体験からいえることは、地理教育における地理写真の果たす役割は多面的であり、その意義や効果は大きいものと手応えを感じてきた。とくに自作の地理写真の活用の場合は、その説明に対し臨場感があり説得力が強い。もちろん地理教育において教室での多様な学習活動や野外での学習活動を通じて、地理的知識（教養）の涵養、地理的技能の習得、問題解決の能力などを育成することは重要である。

一見、地理写真は現場主義のコピーのような感もあるが、文字、地図、統計などでは捉えきれない野外の豊かで多様な視覚的情報が満載している。改めて「百聞は一見に如かず」の視点を見直し大切にしたい。地理写真の効果的な活用は、まずは自作の地理写真のストックからであると思っている。いうまでもないが自作の地理写真は時間・経費・撮影条件など多くの制約はある。したがって自作の地理写真の撮影と活用は限度があるので、いろいろと他の写真や地図、図表などで補い活用している。

自ら現地に出かけ一枚の写真を撮る場合でも多面的に現地を見聞しているので、単なる写真の解説だけの活用ではない。ここに自作地理写真の最大の意義があり、インパクトの強いメッセージを伝えることができ教育的効果は大きい。地理写真の活用には授業内容とのかかわり、活用の目的とタイミング、時間的制約などの課題がある。検討して改善することはまだまだ多く残されている。

地理教育において、教材の研究と資料を求め、また地域に対する関心と問題意識を高めるために、「歩いて見て知る、歩いて見て考える」ことを大切にしてきた。それらを通して撮る地理写真の奥は深いと多少なりとも実感しつつある。

高校の現場を離れ5年目になる。その間、大学の非常勤講師として世界地誌、日本地誌、アジアの風土と生活、地誌概説などの地誌科目、地理学、自然地理学、人文地理学などの地理学関係、生活環境と人間、また地理歴史科教育法、社会科指導法、と多くの科目を担当してきた。高校での体験を踏まえて、大学での地理教育においても、地理写真の有効な活用を図り、地理写真の活用から写真地理への模索を継続し発展させていきたい。

なお本報告は2010年10月に名古屋大学で開催された地理教育公開講座（日本地理学会主催）の内容である。紙面の関係で写真の掲載はごく一部であり、ほとんど割愛したので十分には内容を報告できないが、授業記録の概要としてまとめた。

## 文献

- 愛知大学総合郷土研究所編(1992)：『景観から地域像をよむ』名著出版
- 石井 實 (1988)：『地理写真』古今書院
- 石井 實 (1999)：『地理の風景－地理写真集』大明堂
- 梅村松秀，関 典子，新堀 毅，河村信治 (1998)：特集「写真で考える異文化理解」地理43－8
- 菊池俊夫編著 (2004)：『風景の世界－風景の見方・読み方・考え方－』二宮書店
- 黒崎至高 (2001)：景観写真を用いたシラス台地のくらし，井田仁康・伊藤悟・村山祐司編『授業のための地理情報－写真・地図・インターネット』古今書院
- 桑子敏雄(2009)：『空間の履歴』東信堂
- 小峯 勇 (1984)：地理の教材開発，町田 貞・篠原昭雄編著『地理教育の内容』社会科地理教育講座2（明治図書）
- 水津一郎 (1989)：『景観の深層』地人書房
- 田代 博 (2009)：地理写真・空中写真・衛星画像（リモセン），中村和郎・高橋伸夫・谷内達・犬井正編：『地理教育の方法』地理教育講座第Ⅱ巻 古今書院

辻村太郎 (1937) : 『景観地理学講話』 地人書館  
 名取洋之助 (1974) : 『写真の読み方』 岩波新書  
 八田二三一 (2009) : 中学・高校地理教育における地理写真の教材的効果に関する一考察. 新地理57-2  
 原 眞一 (1987) : 名古屋の地域学習－都市の総合学習のあり方－. 地理の広場64号  
 原 眞一 (1989) : 世界認識のあり方－高校地理の取り組みから－. 地理学報告68号 (松井貞夫先生退官記念号)  
 原 眞一 (1994) : 地理教育とその周辺－その実践－, 立命館地理学 6 号  
 原 眞一 (1997) : 東南アジアの 2 つの側面－タイの北部山岳地帯と首都バンコクを事例として地理・地図資料, 5 月号  
 原 眞一 (1998) : 地理 A の模索－あり方・実践・課題. 地域地理研究 3 号  
 原 眞一 (1999) : タイランドを教えて－高校世界地理の一事例. 岐阜地理43号 (伊藤安男古希記念号)  
 原 眞一 (2000) : スコットランドとイングランド. 野外歴史地理学研究会編『世界の風土と人びとのくらし』ナカニシヤ出版  
 原 眞一 (2001) : 高校生の地理的意識・関心・認識を考える－豊かな地理観を目指して－. 地理学報告 93号  
 原 眞一 (2003) : 「地理の目・写真の眼－地理写真からのメッセージ」(人文地理学会第3回公開セミナー資料集『地理の職人技を考える－アルチザン地理学を求めて－』)  
 堀 信行, 小野裕吾, 前島郁雄, 杉谷 隆, 石井 實 (1995) : 特集「写真を語る」地理40-5  
 松田 信 (1982) : 景観概念の受容と変容. 京都大学文学部地理学教室編『地理の思想』地人書房  
 南出儀一郎 (1984) : 地理学習における資料の活用. 町田 貞・篠原昭雄編著『地理教育の方法』社会科地理教育講座 3 明治図書  
 山本熊太郎 (1932) 『景観地理教授法』古今書院  
 文科省 (1999) : 『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』実教出版

文科省 (2010) : 『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』実教出版

地理学報告 113 号正誤表

	誤	正
3頁左13行目	Ⅱ 生業と取り利用の変化	Ⅱ 生業と土地利用の変化
3頁右 6行目	起業のほか、	起業とともに、
19頁右21行目	マグンロ__プ	マグンロープ (ママ)
21頁左23行目	シュルーベリー, ストラフォード	シュールズベリー, ストラトフォード
22頁左35行目	ロ__テンブルグ	ローテンブルグ
22頁右16行目	ガイドウェ__バス	ガイドウェーバス
24頁左14行目	書き出し部分である。	書き出し部分である (ただし, 生徒に示す際, 旧字体と旧仮名遣い, 漢数字を書き改めた)。
〃 左17行目	しばしば雨滴が	しばしば, 雨滴が
〃 左19行目	あつく, 雲の	厚く, 雲の
〃 左22行目	椰子の木をてん綴した	椰子の木を点綴した
〃 左35行目	茶褐色に	茶褐色の
〃 右 9行目	俄に	俄かに
〃 右10行目	反らしていた	反らした
〃 右11行目	ウェニス	ヴェニス
〃 右13行目	ものではない	ものではあるまい
〃 右17行目	1931年当時	1941年当時
28頁左 3行目	感想やなど	感想など